

キャンプ場の青春 ～ 学生時代も今も ～

木田支部 杉山恵子（教育・昭和47年卒）

学生時代、10人程で「野外活動研究会」の活動を始めた。屋島・五色台のキャンプ場が活動の場であった。五色台少年自然センターには下笠居のバス停から、屋島少年自然の家には八栗駅から徒歩で通うほど元気いっぱいであった。

自分たちでキャンプや登山を楽しみながら、請われれば、子ども会活動の指導にも行った。キャンプが教育活動として広まろうとしていた頃であった。指導に行くには技術を磨く必要があり、研修もした。そこには、いつも笑いがあった。自分が自分でいられる解放感があった。仲間たちとの一体感が堪らない魅力であった。

県の保健体育課から要請を受け、中・高校生のリーダーキャンプにスタッフとして参加するのも重要な活動であった。夜のスタッフ会で、現職の先生方の教職やキャンプにかけた愉快で情熱的な話を聴くことが度々あった。それが、私の社会人としての基礎を作った。

就職して間もない頃、思い通りに行かず、しょんぼりうなだれて帰りの列車に乗ったとき、真っ暗な車窓に大きなキャンプファイヤーが見えた（ように思えた）ことがあった。その炎に励まされ元気を取り戻した。五色台での新採教員宿泊研修の時、闇の向こうから聞こえてくる中学生のキャンプファイヤーの歓声に励まされ元気出したこともあった。

38年間の教職を終えようとする頃、「杉山さん、野研やったんやなあ。キャンプ協会に入らんかい」と声をかけてくださる方があった。喜んで入会して3年。どの活動も楽しい。活動できる体力があることが嬉しい。

そして思う。野研の仲間、キャンプ協会の仲間に通じていること。自然が好き、体を動かすのが好き。思いを語り、思いを実現するために知恵を絞り、汗を流し、笑い合うのが好き。そんな仲間たちは、何より人が好き。参加者の笑顔に励まされ、また努力をする。

退職前、これからの人生で大切なのは、「自己実現と社会貢献」と話してくださった方がいた。私は「やんちゃな高齢者になるぞ!」と思っていた。今の私には、キャンプ協会の活動がまさにそれである。

『オ～イ！これを読んでくれたかつての仲間たち。連絡くださ～い。一緒に、キャンプをやしましょう。』